

2011 五島長崎国際トライアスロン大会（BARAMONKING）レポート

棚澤 信

開催日：2011年6月19日（日）

震災の影響か、アイアンマンの大会で無くなったためか、申込みが延長されたが、参加予定者は昨年の半分程度の507人。自分の年代の参加予定者も77人と、年代別10位以内の世界選手権出場権の可能性も全く無いとは言えない。バラモンは、福江島の鬼の絵柄のバラモン凧から来ているのだが、バラモンキングというと、怪獣の名前かゲームのキャラクターという感じ。ジェットフォイルで4時半に福江島に到着。足の手配が終わった後にイベント会場や時間の変更があり、確認不足で右往左往。前日も早起きして、雨の中試泳に行った。穏やかだが、水は濁っていて冷たく不安を感じた。宿に帰ってバイクで軽く試走して、福江でバイクチェックイン。予報通りだと一晩雨ざらしの覚悟である。昼食、調達、競技説明会に出ると、あとは明日の準備だけ。天気予報は頻繁に変わるが、いずれにしても雨である。

レース前日は8時半に就寝、眠りは浅かったが時間は眠れた。ザーザー振りの中、暗いうちにバスでスイム会場へ向かう。こんな天気の中、バカモンキングだ。傘をさして準備するが、時間が余って、みんなテントの中に密集している。雨漏りを避けてかなり高密度で立ちっぱなしだ。自分と同じロングジョンのウェットはほとんどいないが、今さらである。スイムチェックの時間になって海に入る。雨は小振りになったが、昨日以上に冷たい。いつも以上にアップをするが、あまり温まらない。足が立つところはほとんどなく、スタート地点まで50mほど、海から上がって待機したほうがいいのか迷いながらも、水中でフローティングスタートに備える。ライフガードの人のボードにつかまって休ませてもらうが、ガタガタ震えて、心配される始末。泳ぎ始めれば何とかかなと思ってスタート地点へ。合図はよく聞こえなかったが、スタートの目印の外側ブイのあたりからスタート。バトルを避けて左に逃げようとしたが、さらに外からたくさんの人がきて、いきなりバトルに巻き込まれる。大した密度ではないが、体をねじったりひねったりして、リズムが作れずにアップアップに。冷静だったが、呼吸困難に陥る。周りにつかまるところもなく立ち泳ぎ、泳ぎ始めるが息継ぎ2回目くらいで苦しくなって断念。寒すぎて血が巡っていないんだろう。世界選手権どころでは無い、早々のリタイアの危機だ。最後尾はまだ遠い、さっき抜かせた人はもうあんなに遠くに行ってしまったなどと自分の位置を確認しながら、休んだり泳いだり。なんとか400mの最初のブイにたどりつく。いざとなったらコースロープがあると思いつつ、少しずつ落ち着いて泳げるようになってくる。しかし、指先の感覚は無く、なかなか進んでいる感じが無い。時々冷たい水の流れに襲われ、恐怖を感じる。1100mの港の出口に近付くとちょうど腕に当たるようないやな周期で、いやな振幅のうねりが気になりだす。うねりに翻弄されて、こんなに水を飲んだことはない。折り返すと左

の岸壁側のみコースロープで、左に曲がるブイを目指す。プールでは左息継ぎも練習しているが、リズムを崩すのが怖くてできない。方向確認がうまくできず、周りに全く人が見えないこともしばしば、蛇行しまくる。やっと、1周回目が終わるが、滑ってなかなか岸に登れない。1周でスキップという選択肢もなく、給水して2週目に。前半のロスが大きいせいか、さすがに周りの人よりは早い、我慢の2周目。耳元で大きな音がしだす。冷静に考えると、激しい雨が水面に当たる音だ。やはり、水を飲んで、内側にコースアウトしそうになって注意を受ける。水位が腰より高い位置から歩きだすと、1時間30分という時計が見える。うー寒い。1時間32分51秒（244位）、やってしまったと思った。想定より20分遅い。しかもダメージ大である。

トランジションでは震えて手が自由に利かない。ゼッケンベルトを忘れてきたのもそのままロスに、ゼッケンのピンも付けられないし、バイクジャージのジッパーが上げられない。更衣室に座り込んだまま1時間40分という放送を聞く。土砂降りのバイクも寒そうだし、雨が避けられるここで、少し戻るまで休んだ方がいいかと思う。じっとしている寒さにも耐えられず、バイクスタート。すぐにゴーグルが曇り、実感の無いバイクが始まる。自分の前輪が出す水しぶきを受けながら、どうなるのかと思う。体が固まっているのか、スタート直後から腰が痛い。すぐにアップダウンが始まる。力も入らず抜かれまくる。雨のせいか、ケイデンスのメーターも動かない。きっと集中力も落ちているから、落車に気をつけて慎重運転、体が温まるまで我慢だ。意識的にダンシングを増やす。あっという間に周回コースに入る。高台に風車が並んでいる。20kmくらいで、ようやく体の感覚は正常に。下りきってスピードが乗ったところで急カーブ、スピードを落としたところから上りといういやなコースが続く。雨は時々激しくなるが、小振りにはならない。下りは顔に当たる雨粒が痛い。これだけ水をはねれば、ドラフティングをする人も今日はいないだろう。のどが渴かず、ほとんど給水しないので、エイドではひたすらバナナを食べる。給水してないのに、トイレに行きたくなる。沿道のトイレは、スピードが乗ったところばかりで、入るタイミングを失する。2周目、先頭が来るとの白バイのプレッシャー。逃げ切れずに明らかに速度の違う選手に何人か抜かれる。コースもなんとなくわかってきて、ロスの少なそうな道端のやぶでピットイン。次第に雨にも濡れた路面にも慣れて、調子も出てきた。3周目は周回遅れの人もいたのか、かなり抜き



傾向に。上りはしのいで下りから平地、短い上りで頑張る。2周目と同じ場所でピットイン。雨ざらしになっているせいか、ギアチェンジがスムーズじゃないことがしばしば、メカ系も不調気味に。周回部分が終わってもアップダウンは続く。バイクゴール近くの狭くて路面が悪い小さなアップダウンが嫌な感じだった。バイクシューズの中もびしょぬれで、漕ぐ度に変な感覚。このまま走ればきっとマメができる。追い抜く遅い選手は腕輪が少なく、スキップの選手か。ランの選手とすれ違う。何位くらいの選手だろうか。落車もパンクもせずに無事にバイクゴール。6時間54分59秒（128位、通過152位）、すでに3時半で、想定より1時間以上遅いが、やむ無しである。

今さらなのでゆっくりトランジション。昨日預けたランバッグからは替えの靴下は当然出てこない。公園沿いの往復コース、近いゼッケンの選手を見ても気にならない。キロ6分ちょっとで入ったが、バイクのダメージで腰も痛いし、ふくらはぎが張っている。タイム以上に、バイクでいい走りができていなかったんだと思う。すぐにマメの兆候で足の裏が痛み出して、ペースは落ちだして、7分ペースを維持するのも厳しい。こんな雨だけど、傘をさして沿道で応援してくれる人も多い。配られている選手名簿にカナがあるので、くるみさわさんと応援してもらえる。ランのエイドでは毎回水分補給、暑さは感じないが汗はかいているみたいだ。左にあるはずの鬼岳のかけらも見えない。まずは20kmを目指す。ペースは上がらないが、足腰の痛みは無くなってきた。2周目スキップしたいところだが、完走はしなければいけない。ちょっとモチベーションも足りない。完走という意味では余裕なので、上りは歩くことにする。



次の目標は、25kmのスペシャルエイド。立ち止まって缶コーヒーを飲む。フィジカルじゃなくてメンタルのリフレッシュだ。前後にほとんど人がいない孤独な走りが数キロ。ランに入って穏やかだった雨が急に激しくなる。集中豪雨といった感じで、ここ数日の南九州のニュースを思い出す。そういえば昨夜から大雨警報が出てたかも、これが続いたら下手するとレース中止で強制回収されるかも知れないと心配になる。心配がモチベーションになってペースが上がる。30kmくらいが一番好調で、やっと前に選手を見つけ、何人か抜く。昼間も暗かったが、日が落ちて時々ある照明が頼りになる。エイドでは、暖かいスープをメインにとる。コースもアップダウンになり、明らかな上りは歩きになる。距離表示がカウントダウンになり、町に入ると唐突にゴールへの誘導路に。レースは不本意だったが、悪条件の中、いつもより長いレースを完走で



きたことを喜ぼうと思う。観客の人たちのハイタッチしながらゴールへ。ランタイムは5時間28分23秒（280位）、目標より1時間遅いが、2年前のアイアンマンのタイムを数分上回った。トータルタイムは、13時間55分14秒（210位／年代37位）、完走326人、完走率は71%だった。

去年の佐渡から、宮古島、五島と連戦完走をつなげることができた。寒さと豪雨、厳しいレースでいい経験だったと思うことにする。シャワーを浴びて、マッサージを受けて五島うどんを2杯。制限時間が近づいてきたので、スタンドで傘をさしてゴールを見る。入ってくる選手もまばらで、劇的なぎりぎりゴールもなくあっさりとレースは終わった。翌日は筋肉痛をはじめ、ほとんどダメージが無い。次のレースはカンカン照りと暑さに苦しむかもしれない。